

クオリティインディケーター(QI)成果報告

〔医療安全管理部門〕

指標名

RRS (Rapid Response System) の積極的活用の推進

※RRS とは、急変前の兆候を捉え、急変を未然に防止するためのシステム

目標・ゴール

RRS 起動基準に該当後、遅滞なく RRS が起動できる

【適切なタイミングでの起動（目標：80%以上）】

RRS 起動症例・コードブルー（CB）起動症例を対象とし、RRS は起動基準該当から3時間未満、CB は起動前1時間未満での起動を「適切」と定義する。

目標・ゴール達成による効果

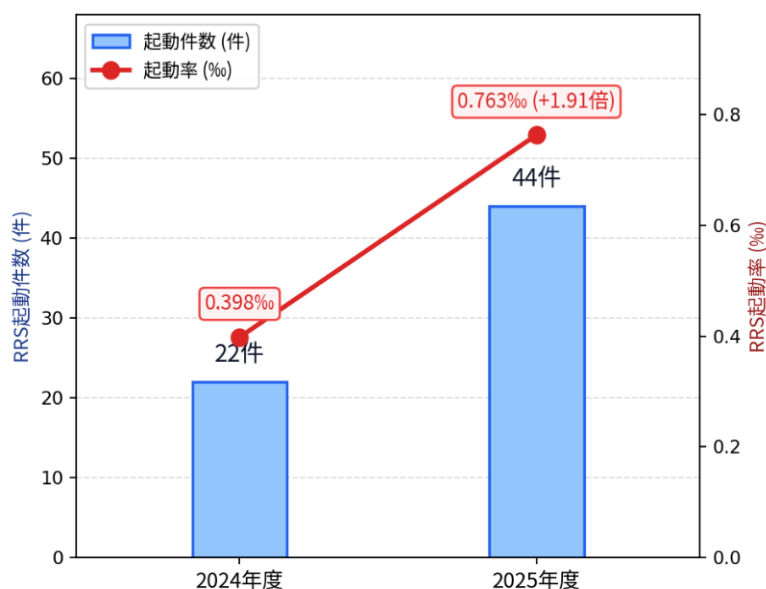
当院では入院患者さんの急激な状態変化に備え、2つのシステム（RRS・CB）を運用しています。本目標の達成により、患者さんの急変を未然に防ぎ、救命率や予後の大幅な改善が見込まれます。また、重篤な急変を減少させ、院内全体の安全性向上と医療の質のさらなる発展が期待されます。

目標・ゴールに対する成果の状況

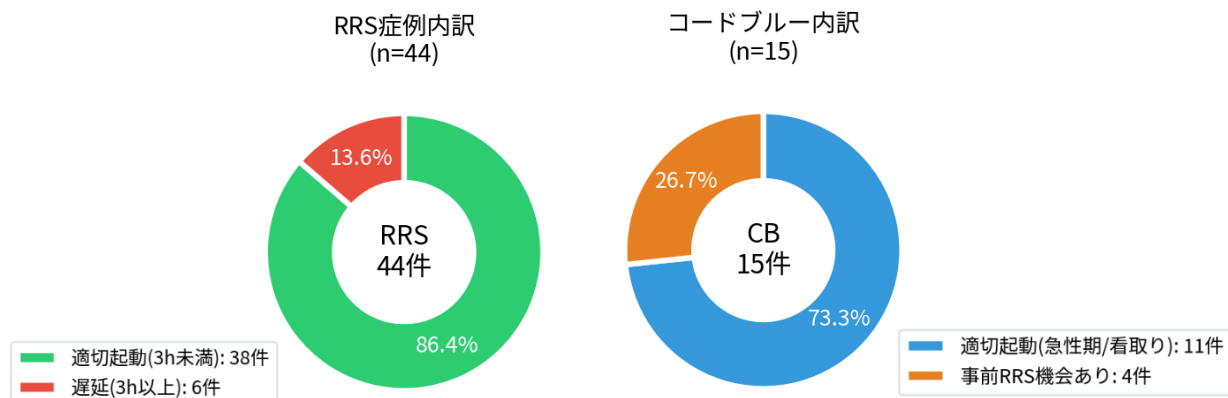
■2025年度の総起動件数は59件（RRS：44件、CB：15件）でした。発生頻度を示す起動率においてもグラフ①に示す通り大幅に増加しました。これは、急変の前兆に対する院内認知度の向上と、安全文化が現場に定着してきた成果です。

① RRS起動件数と起動率の比較

【件数 2.0倍 / 起動率 1.91倍に大幅増加】



■評価基準を満たした適切な起動は、RRS：38件、CB：11件の計49件となり、全体の適切な起動割合は83.1%と目標（80%以上）を達成いたしました。



目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- ☐ S : 大幅に目標を上回った
- ☐ A⁺ : 目標を多少上回って達成
- ☒ A : 目標を達成
- ☐ B⁺ : 目標を少し下回った
- ☐ B : 目標を下回った
- ☐ C : 目標を大幅に下回った
- ☐ - : 外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

■ 課題

RRSにおいては、起動例の8割以上で適切な時間内に初期介入できており、早期対応システムとして確かな成果を上げています。一方で、重篤な急変を示すCB件数も増加傾向にあります。要因を分析したところ、大半は予測困難な状態変化や看取りの方針が共有されている事例への適切な対応でした。

しかし、一部の事例において、現場のスタッフが自部署で懸命に対応を継続した結果、システム起動までに時間を要し、専門チームの介入までにタイムラグが生じたケースが確認されました。また、コードブルーが発生する前の段階で、より早期にRRSを活用できた可能性が示唆されています。

■ 目標と改善策

今後は「迅速な初期介入による患者予後の改善」へと質をシフトするため、RRS起動の目標基準を現行の3時間未満から「2時間以内」へと厳格化しより早い段階での介入を目指します。これに向け、初動に課題がある事例について検証を進めるとともに、継続的な教育を行い、RRSの積極的活用の推進してまいります。